

2020年度・2021年度「SPレコード（松本コレクション）のデータベース作成と分析」研究概要報告

著者	米田 文孝, 橋寺 知子, 官田 光史, 篠塚 義弘
雑誌名	SPレコード（松本コレクション）のデータベース作成と分析：研究成果報告書
ページ	1-6
発行年	2022-03-18
URL	http://doi.org/10.32286/00026235

2020 年度・2021 年度「SP レコード (松本コレクション) のデータベース作成と分析」 研究概要報告

研究代表者 米田 文孝 (関西大学文学部教授)
研究分担者 橋寺 知子 (関西大学環境都市工学部准教授)
官田 光史 (関西大学文学部准教授)
篠塚 義弘 (関西大学博物館学芸員)

当研究プロジェクトでは、「SP レコード (松本コレクション) のデータベース作成と分析」と称して、関西大学が大阪音楽大学から 2017 年度に寄贈を受けた SP レコード群について、2020 年度から 2021 年度までの 2 年間に体系的に分類・整理を行い、そのデータベース作成とレコード音源に付随する当時の時代背景や風俗などを研究した。その結果、寄贈を受けたレコード群の総数や保存状態など全体像を把握することができ、大正から昭和初期頃までの関西圏や阪神間モダニズムについて、当時のレコード音源から研究することができた。そして、レコード群の中から関西大学女子学生第 1 号である北村兼子が自ら吹き込んだレコード「主張 怪貞操」を発見することができたなどの成果もあった。

以下に 2 年間における研究活動の概要を述べる。

1. はじめに

1877 年に世界の発明王であるアメリカのトーマス・エジソンが音を記録し再生できる装置「フォノグラフ (蓄音機)」を発明して特許を取得した。この発明により、人類は保存できず消えてなくなる存在であった音という資源を記録して保存し、それを再生することが可能となった。エジソンは、電話や会話の記録と再生にこだわったが、エンターテインメント業界は、音楽を記録して大量に販売することを思いついた。つまり、単に音を記録するだけでなく、音楽を始めとした様々な分野での利用や応用などの可能性が広がっていった。

SP レコードとは、カイガラムシから抽出した天然樹脂であるシェラックを主原料とした平円盤状の媒体に音源を記録したものである。このレコードは重くて硬いが割れやすく、生物由来の原材料が含まれるので、カビが発生することもあり取り扱いや保存に注意が必要であった。直径 12 インチ (約 30cm) 円盤の片面に、音源を約 4～5 分記録することができる。その後、1948 年頃には軽くて割れにくい塩化ビニールを主原料とした LP レコードが発明され、同サイズ片面で約 30 分程度の記録が可能となり、従来の SP レコードを席卷した。LP とは Long Playing の略であり、LP の発明により、従来のレコードを日本では SP (Standard Playing) と呼ぶようになった。なお、世界的には回転数から 78rpm と呼ぶ。

SP レコードは、音源としての価値だけではなく、録音・記録された当時の時代背景や世相・風俗などを知る上でも、非常に貴重な資料でもある。

2. 松本コレクションについて

松本コレクションとは、伊丹市在住であった松本正美氏（故人）が、主に大正時代から昭和中期にかけて日本国内で販売された SP レコードを蒐集したものを蒐集者の名前を付けて呼んでいるのである。同コレクションは、松本氏のご遺族が大阪音楽大学に寄贈されたものを 2017 年度に大阪音楽大学から本学が引き継いだ。蒐集分野は、朗読・講演・実況中継に始まり、歌舞伎・箏曲（琴）・雅楽・尺八・琵琶など日本の伝統的な芸能から、漫才・落語などの娯楽、流行歌、映画主題歌・ジャズ・ポピュラーなど幅広い。また、コレクションの中には、レコード・コレクターの間で、「出張録音盤」と呼ばれる日本国内にまだレコード工場が無かった明治期に、ヨーロッパやアメリカから録音技師が来日して録音し、自国に持ち帰ってレコード化（プレス）してから、日本に逆輸入したものもあった。

松本氏は、これらのコレクションを自らの考えに基づいた分類をして手書きのノートに記録し整理していた。そして歌謡曲コレクションノートの表紙には、「歌の不思議さは、その時代の風景や匂いを抱いていることである。戦前編はわが青春の音の記録であり、戦後編はわが生活の哀歓そのものである。昭和歌謡は追憶と現実の接点にいつまでも生き続ける。」と自らの想いを著すなど、蒐集したレコードに愛着を持っていたことが伺える。大阪音楽大学からの寄贈に、このコレクションノートも含まれていた。当研究プロジェクトでは、蒐集者の意志を尊重し、この分類にそってデータベースを構築することにした。

3. 研究分担と活動概要

当研究プロジェクトでは、博物館事務室・学芸員の篠塚義弘が「SP レコードの整理・分類、データベース構築と関西大学との関連」、環境都市工学部准教授の橋寺知子が「宝塚歌劇と大正・昭和初期の阪神間モダニズム」、文学部准教授の官田光史が「昭和初期の関西のメディア・イベント」を担当し、文学部教授の米田文孝が全体を総括することにした。

以下に、各時期における研究活動概要を述べる。

[2020 年度春学期]

貴重な予算を有効に利用するため、2020 年春学期は、文化庁の「令和 2 年度文化庁地域と協働した博物館創造活動支援事業」予算を活用して SP レコードの整理・分類、ヒビや汚れなど状態把握とデータベース構築のための基礎データの作成を中心に SP レコード群の全体像の掌握に努めた。そして、2020 年秋学期以降に、なにわ大阪研究プロジェクトで、この基礎データを基に詳細なデータベースを構築する計画を立てた。しかし、2020 年 2 月頃から世界的に広がった新型コロナウイルス感染症の影響で、4 月から約 2 ヶ月間の大学構内立入り禁止期間が設けられるなど計画変更を余儀なくされた。

7 月頃から 10 月にかけて行った SP レコードの整理・分類と基礎データの作成について、簡単に述べる。

コレクションノートとともに、大阪音楽大学から受け取った SP レコードは、約 80 箱の

ダンボールに保管されていた。1箱には直径10インチ（約25cm）のSPレコードが40～50枚程度収納されていたので、非常に重くて持ち運ぶのに苦労した。梱包を解くにあたり、当初はコレクションノートに従い整理されていると予測していたが、何度かの保管場所移転を経たため分類通りではなく混在していた。このため、その時点でのコレクションノートとの照合は不可能と判断し、まずは、レコードを分類することから始めた。コレクションノートの分野毎に大まかに分類した上で、レコード・レーベル毎に仕分けし、その上でレコード番号順に整理することにした。レコードの整理・分類を終えてから、レコード・レーベルのA面（表面）とB面（裏面）の画像を事務用コピー機のスキャナ機能を利用してパソコンに全て取り込んだ。同時に、割れ、ヒビ、汚れなどレコードの状態も付箋を用いてレコード・レーベルのスキャナ画像と共に記録した。この結果、寄贈を受けた松本コレクションのレコード総数が4,086枚であることが判明した。レコード・レーベル画像があれば、貴重なレコード本体を用いなくても、基礎データを入力することができる。



写真1 SPレコード整理・分類作業1



写真2 SPレコード整理・分類作業2



写真3 レーベルのスキャナ作業



写真4 基礎データ入力作業

スキャナ作業と並行して、レコード・レーベル画像を用いた基礎データ入力作業を行うにあたり、入力要領を作成して、入力順序や記載項目の統一を図った。

以上の作業の詳細については、2020年11月21日（土）13:30～16:00に、かんさい・大

学ミュージアム連携実行委員会主催の ZOOM による座談会「近代遺産の発掘と活用 寄贈資料を引き継ぐ～SP レコード～」(前述の文化庁事業)で報告した。座談会の参加者は、55 名(ZOOM 参加 48 名)であった。座談会の詳細は当報告書の後半に掲載する。

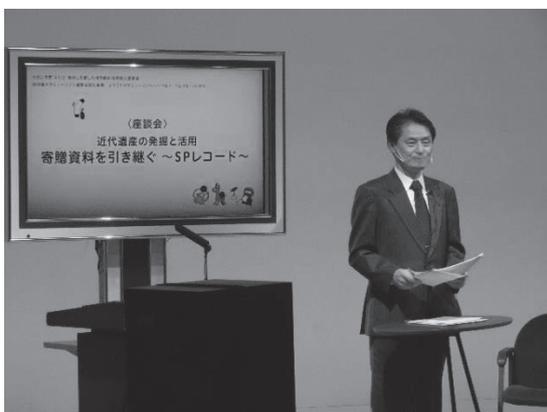


写真 5 ZOOM による座談会 1

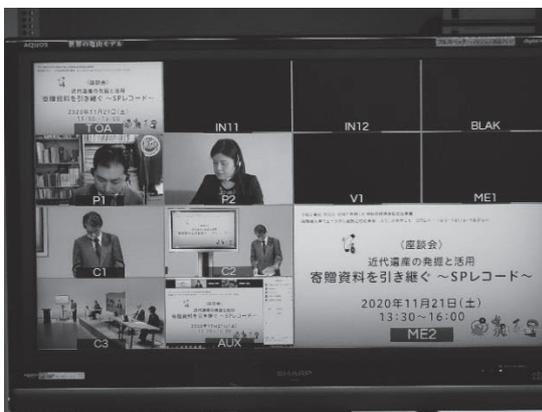


写真 6 ZOOM による座談会 2



写真 7 ZOOM による座談会 3



写真 8 ZOOM による座談会 4

[2020 年度秋学期～2021 年度秋学期]

2020 年 11 月頃から、当研究プロジェクトでは、この膨大な基礎データを基に詳細項目への抽出作業を順次行った。2021 年度春学期には、新型コロナウイルス感染症の再拡大による影響もあり、少人数で膨大な入力作業を細々と続けるなど、データベースの作成作業には苦勞した。なお、分類項目毎に詳細項目のデータベースを作成するにあたり、研究分担者が担当する「講演」「歌劇」「交響曲」分野を優先して作業を進め、研究活動に支障が少なくなるよう配慮した。

2021 年 11 月 20 日(土) 13:00～16:00 に、2 年間の研究成果報告会を SP レコードのお披露目演奏会を兼ねて、なにわ大阪研究センター1 階セミナー室にて開催した。研究分担者 3 名がそれぞれの研究成果を発表した。報告会の参加者は 23 名であった。

- ・篠塚義弘「データベースの作成と北村兼子のレコード「怪貞操」発見」

先ず、SPレコード群の整理・分類の方針と具体的な作業手順について報告した。作業概要については、この報告書ですでに記述しているので省略する。作業を通じて、本学女子学生第1号として知られる北村兼子が自ら吹き込んだレコードを発見し、レコード発売会社の新譜情報などを入手して、発売時期の確定なども行った。報告会では、北村兼子の紹介を行った上で、今回発見した彼女の肉声レコードである「主張 怪貞操」を披露した。



写真9 研究成果報告会1

- ・橋寺知子「宝塚少女歌劇—大正・昭和初期のエンターテイメント空間—」



写真10 研究成果報告会2

エンターテイメント空間の追体験を試みた。

- ・官田光史「『黒潮行進曲』の誕生—戦時期和歌山のメディア・イベント—」

松本コレクション中の懸賞募集当選歌について概観を行ったのち、日中戦争期(1940年)の作品である「黒潮行進曲」(西川好次郎作詞、深海善次作曲)を取り上げた。この作品の歌詞は紀勢線の全通記念として、大阪毎日新聞和歌山支局によって募集された。その募集、当選歌詞の発表、作曲の完成、発表会(於・和歌山市、新宮市)の開催は連日新聞で伝えられ、和歌山県民の関心を集めた。その意味において、「黒潮行進曲」の誕生はまさにメディア・イベントであった。

1914年に小林一三が創設した宝塚歌劇に注目し、公演のレコードとともに、歌劇場の建物(プールを利用したパラダイス劇場、公会堂劇場、中劇場、改装前後の大劇場など)の変遷や当時流行した風俗にも着目し、報告した。大正期以降、宝塚に出現した施設群は、小林一三の考える新時代の娯楽場であった。歌劇場のあゆみを写真等で探ると同時に、そこで演奏された歴代の宝塚歌劇の楽曲をSPレコードで聴き、大正期から昭和初期のエン



写真11 研究成果報告会3

3名の報告の後、休憩を挟んで、ゼンマイ式の蓄音機を用いて松本コレクションの中から、時代に沿って、約1時間のSPレコード演奏を行った。



写真12 研究成果報告会4（演奏）

No.	タイトル	演奏者	レーベル	レコード番号	備考
1	主張 怪貞様	北村兼子	NITTO	2454	1927.4.
2	歌劇 音楽カフエー	宝塚歌劇	ORIENT RECORD	A529	(1914.10.)
3	レビュー パリゼット (すみれの花歌ぐさ)	宝塚歌劇	Columbia	25965	(1930.8.)
4	レビュー パリゼット	宝塚歌劇	Columbia	26006	(1930.8.)
5	レビュー 春のまどり	宝塚歌劇	Columbia	28333	(1935.4.)
6	流線美の春	宝塚歌劇	Columbia	27630	岡田千秋作詞・佐藤惣之助補作
7	大阪商工寮協会協賛 少将大坂新聞懸賞当選歌・北原白秋選 大大阪舞 船漕行進曲	波岡惣一郎・米山博夫	ミス・コロムビア VICTOR	PR-215	西川好次郎作詞 深海壽次作曲
1	伯林オリムピック競技場 陸上マラソン表彰(藤・南選手の大勝利)	アサヒニュース班	ASAHI	155	(1936.8.)
2	第十一回国際婦人'39大会水上競技実況放送(女子二百米予決決勝)	河西三省	POLYDOR	8516	(1936.8.)
3	書生節	高橋銀声	NITTO RECORD	635	野口雨情作詞 中山晋平作曲
4	笑ひ楽	二村進一	Victor	50494	1928.12 後々紅葉作歌並編曲
5	船頭可愛いや	音丸	Columbia	28410	高橋樗太郎作詞・吉田裕三作曲・徳山真直編曲
6	影を巻いて	藤山一郎	Columbia	26748	吉野政男作詞並作曲
7	松竹映画「そよかぜ」から リンゴの唄	森島昇・並木路子	Columbia	A59	1947.5 作詞・芳屋目正作曲・仁木義雄編曲
8	新軍宝歌團 宝歌 船漕カンカン唄	高峰秀子	VICTOR	40256	佐伯幸夫作詞 藤島貞一作曲並編曲
9	買物ブギー	笠置シズ子	Columbia	A822	村雨まさを作詞 服部良一作曲
10	街のサンディッチマン	鶴田浩二	VICTOR	41033	宮川野夫作詞 吉田正作詞 佐野勲編曲

表1 演奏曲リスト

4. おわりに

今回、約4,000枚にのぼるSPレコード群を整理し、データベースを作成することができた。この結果、松本コレクションのSPレコードをタイトル名やレコード番号などで検索し、容易に探し出すことが可能となった。しかし、細かな項目については、今後も引き続きチェックする必要がある。また、レコードに付随する歌詞カードなども多数存在しており、これらの中にも貴重な情報が掲載されているので、今後の調査を期待したい。

SPレコードを当時のゼンマイ式蓄音機で再生すると、臨場感を感じる事ができる。松本氏のコレクションノートに「歌の不思議さは、その時代の風景や匂いを抱いていることである。・・・」と著されていたように、録音・記録された当時の時代背景や世相・風俗などを知る上で、非常に貴重な資料である。そして、資料としていつまでも生き続けさせるためにも、後世への適切な保存が必要である。